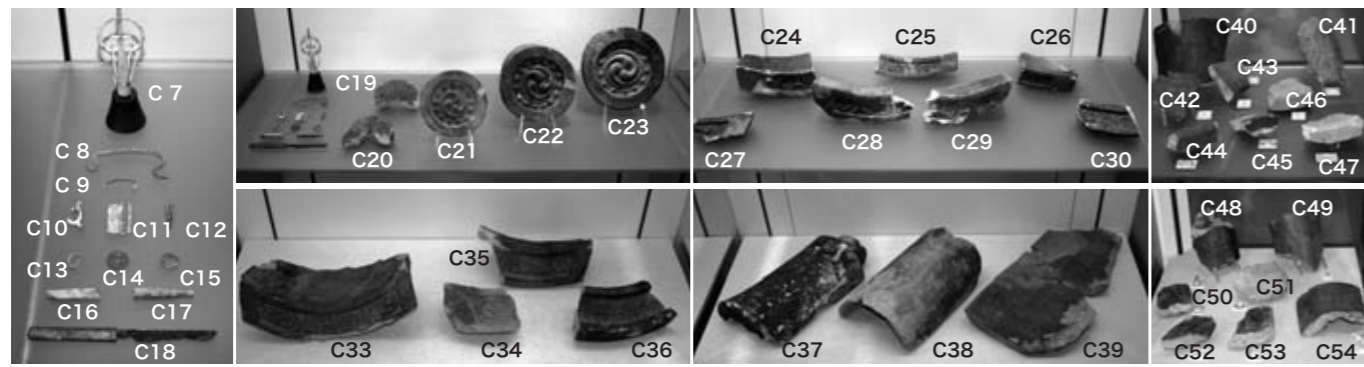
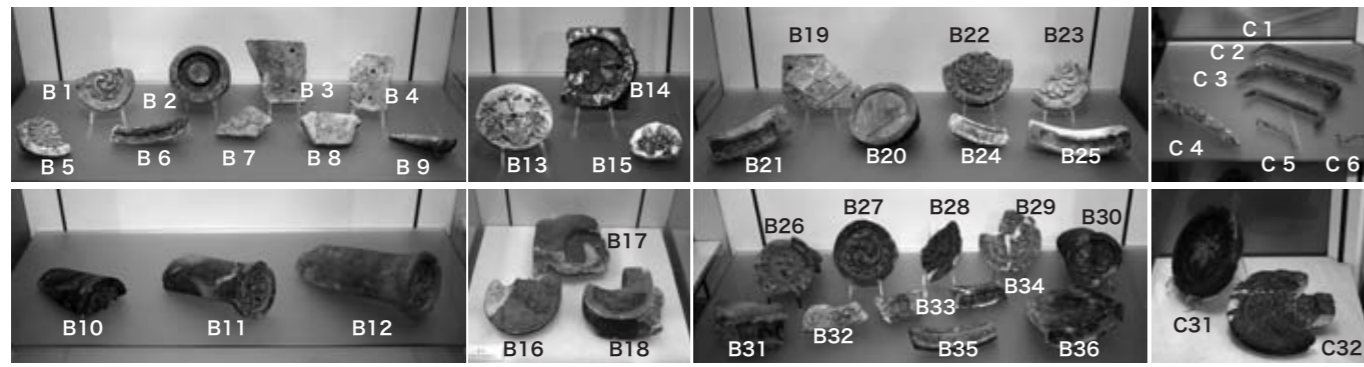
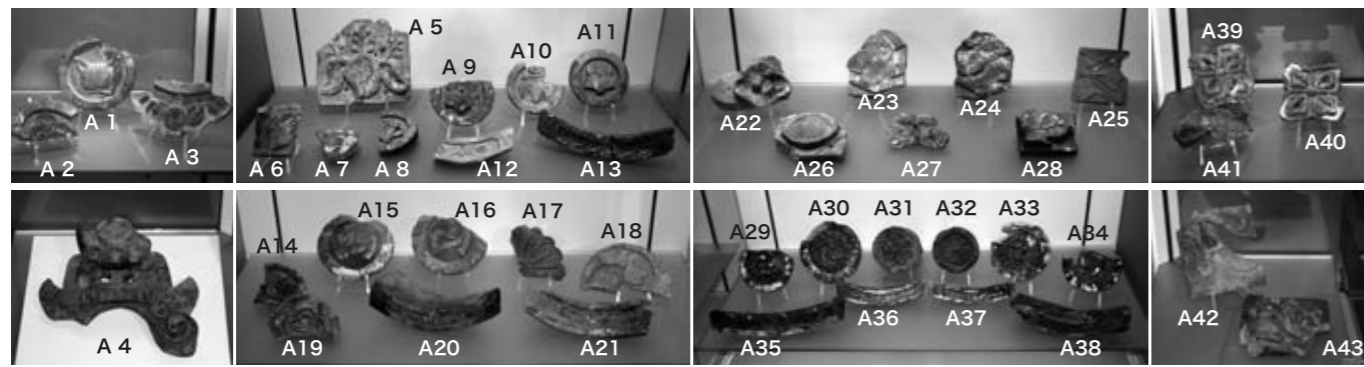
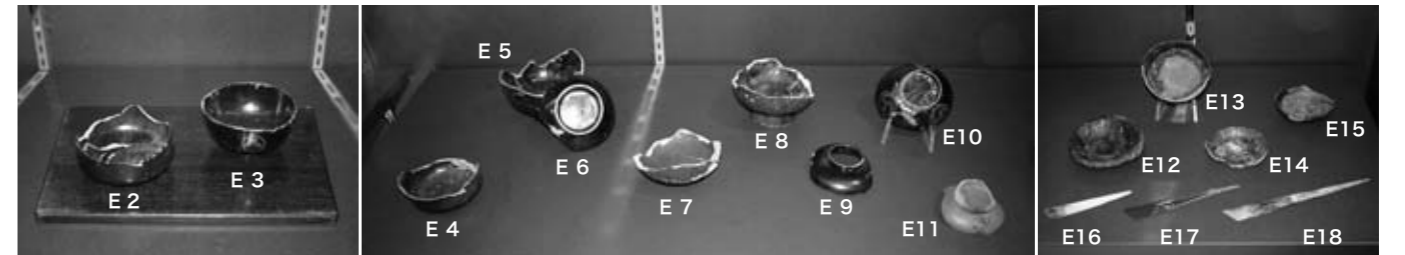
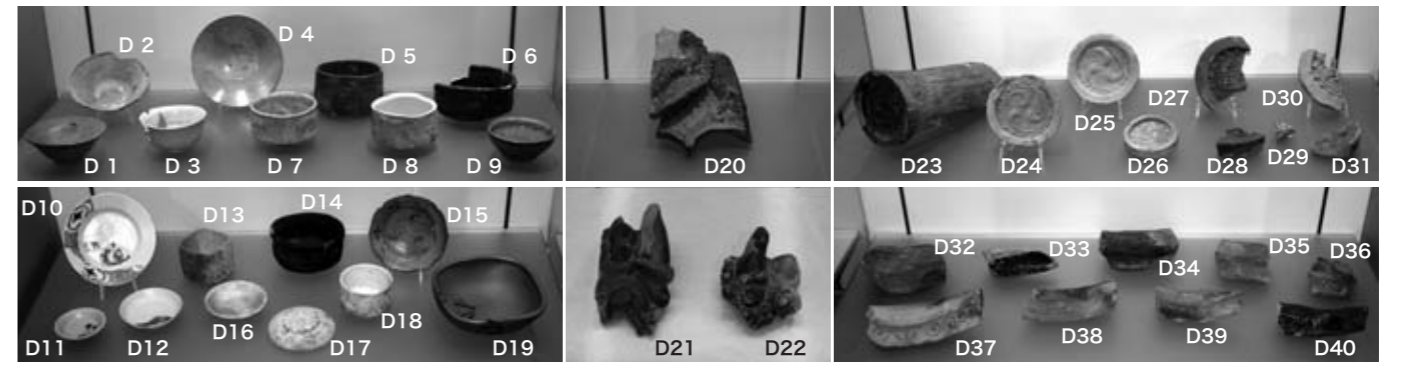


開館 30 周年記念 特別展示「京都 秀吉の時代」によせて

京都市考古資料館 原山 克志



フロントケース 聚楽第・伏見城跡出土	
F 1	軟質施釉陶器黒茶碗 上京区釜座通下立売下る東裏辻町
F 2・3	葡萄文金箔道具瓦 上京区中立売通室町西入る三丁町
F 4	志野水指 伏見区京町南七丁目
F 5	花菱文金箔道具瓦
F 6~8	金箔道具瓦 (輪違)
F 9・10	唐草文金箔軒平瓦
F 11~13	巴文金箔軒丸瓦
F 14・15	花菱文金箔道具瓦
F 16~18	金箔小菊瓦
F 19・20	巴文金箔軒丸瓦
F 21	無文金箔軒丸瓦
F 22	金箔鬼瓦 (角) 伏見区桃陵町



A 面 聚楽第武家屋敷跡出土	
A 1	橘文金箔軒丸瓦 中京区堀川通り御池東入る森ノ木町
A 2	橘文金箔軒平瓦 上京区日暮通丸太町南角
A 3	木瓜文金箔軒丸瓦 上京区西洞院通下長者町下る丁字風呂町
A 4	鬼瓦 上京区中立売通室町西入る三丁町

A 5	桐文金箔道具瓦 中京区堀川通り御池東入る森ノ木町
A 6・7	桐文金箔道具瓦 上京区一条通室町西入る東日野殿町
A 8	桐文金箔軒丸瓦 中京区聚楽廻南町他地内
A 9~11	桐文金箔軒丸瓦 上京区一条通室町西入る東日野殿町

A12・13……桐葉唐草文金箔軒平瓦 上京区一条通室町西入る東日野殿町
A14……三つ葉葵文金箔軒丸瓦
A15・16……山銘金箔軒丸瓦
A17……菊文金箔道具瓦
A18……巴文金箔道具瓦 上京区中立売通新町西入る三丁町
A19……木瓜文金箔軒丸瓦
A20……唐草文金箔軒平瓦 上京区一条通室町西入る東日野殿町
A21……違い鷹羽文金箔軒平瓦 上京区中立売通新町西入る三丁町
A22……金箔鬼瓦（雲文か） 上京区下立売通智恵光院西入る中村町
A23・24……三階菱文金箔道具瓦
A25……花菱文金箔文道具瓦 上京区中立売通新町西入る三丁町
A26……菊文金箔道具瓦
A27……蓮華文金箔垂木先瓦
A28……葉文金箔文道具瓦 上京区中立売通室町西入る三丁町
A29・30……巴文金箔軒丸瓦
A31……菊文金箔軒丸河原 上京区一条通室町西入る東日野殿町
A32……菊文金箔軒丸河原 上京区中立売通新町西入る三丁町
A33・34……巴文金箔軒丸瓦
A35……唐草文金箔軒平瓦 上京区一条通室町西入る東日野殿町
A36……唐草文金箔軒平瓦 上京区下立売通智恵光院西入る中村町
A37……唐草文金箔軒平瓦
A38……唐草文金箔軒平瓦 上京区一条通室町西入る東日野殿町
A39・40……花文金箔道具瓦 上京区中立売通室町西入る三丁町
A41……金箔鯨瓦
A42・43……樹文道具瓦 上京区中立売通新町西入る三丁町

<b>B面 伏見城武家屋敷跡出土</b>
B1……巴文金箔軒丸瓦 伏見区桃山町伊賀・他
B2……餅文金箔軒丸瓦 伏見区桃山水野左近東町
B3・4……桐文金箔道具瓦
B5……巴文金箔軒丸瓦
B6……唐草文金箔軒平瓦
B7……桐文金箔道具瓦
B8……桐葉文金箔面戸瓦
B9……金箔鬼瓦（角） 伏見区桃山町伊賀・他

B10……菊文金箔軒丸瓦 伏見区桃山筑前台町
B11……菊文金箔軒丸瓦 伏見区桃山水野左近東町
B12……巴文金箔軒丸瓦 伏見区桃山町松平筑前
B13……桐文金箔垂木先瓦 伏見区桃山水野左近東町
B14……桐文金箔道具瓦 伏見区下板橋町・鷹匠町・竹中町
B15……桐文金箔道具瓦 伏見区今町・他
B16……鬼瓦
B17……桐文鬼瓦
B18……金箔鬼瓦 伏見区桃山町松平筑前
B19……日丸扇文金箔道具瓦
B20……日丸扇文金箔軒丸瓦
B21……日丸扇・葉文金箔軒平瓦 伏見区桃山町三河
B22・23……菊文金箔軒丸瓦
B24・25……菊文金箔軒平瓦 伏見区桃山筑前台町
B26……巴文金箔軒丸瓦 伏見区桃山町永井久太郎
B27……巴文金箔軒丸瓦
B28……輪宝文軒丸瓦
B29・30……菊文金箔軒丸瓦 伏見区桃山筑前台町
B31～35……唐草文金箔軒平瓦
B36……菊文金箔軒平瓦 伏見区桃山筑前台町

<b>C面 方広寺跡出土</b>
C1～3……鉄製品鏝
C4～6……鉄製品釘
C7……銅製品錫杖
C8～13……不明銅製品
C14・15……銭貨「洪武通寶」
C16……不明銅製品
C17……銅製品煙管
C18……鉄製品小柄
C19・20……小菊瓦
C21～23……巴文軒丸瓦
C24～29……唐草文軒丸瓦
C30……唐草文金箔軒丸瓦
C31・32……桐文軒丸瓦（太閤瓦）
C33～36……桐文軒平瓦（太閤瓦）
C37……巴文軒丸瓦（太閤瓦）
C38……丸瓦（太閤瓦）
C39……平瓦（太閤瓦）
C40……刻印瓦 円形に「大工」

C41……刻印瓦 三角形に「大」
C42・43……刻印瓦 円形に「大工」
C44……刻印瓦 菱形に「大」
C45……刻印瓦「大」
C46……刻印瓦 円形に「太」
C47……刻印瓦 花文に「大」
C48……刻印瓦 方形の圏線に 「御用 御瓦師 蒔田五左衛門」
C49……刻印瓦 方形の圏線に「吉春 茂右衛門」
C50……刻印瓦 宝珠に「上」
C51……刻印瓦 扇形に「や」
C52……刻印瓦 三角形に山形と「山」
C53……刻印瓦 円形に「雁」
C54……刻印瓦「鍵」 東山区茶屋町

<b>D面1 洛中出土</b>
D1……蕎麦茶碗（李朝） 中京区両替道二条下る金吹町
D2……蕎麦茶碗（李朝）
D3……白磁茶碗（李朝） 京都市下京区四条通室町東入函谷鉾町
D4……堅手茶碗（李朝）
D5……瀬戸黒茶碗 中京区三条通麩屋町東入る弁慶石町
D6……織部黒茶碗 上京区油小路通中立売下る甲斐守町
D7……志野茶碗 中京区烏丸通竹屋町下る少将井町
D8……志野茶碗 中京区両替道二条下る金吹町
D9……黄天目茶碗 上京区烏丸通出水上る御苑町・他

<b>D面2 伏見城跡出土</b>
D10～12……青花皿（中国）
D13……志野向付
D14……織部黒茶碗
D15……唐津皿
D16……志野皿
D17……黄瀬戸蓋
D18……黄瀬戸向付
D19……唐津鉢 伏見区桃山町立売

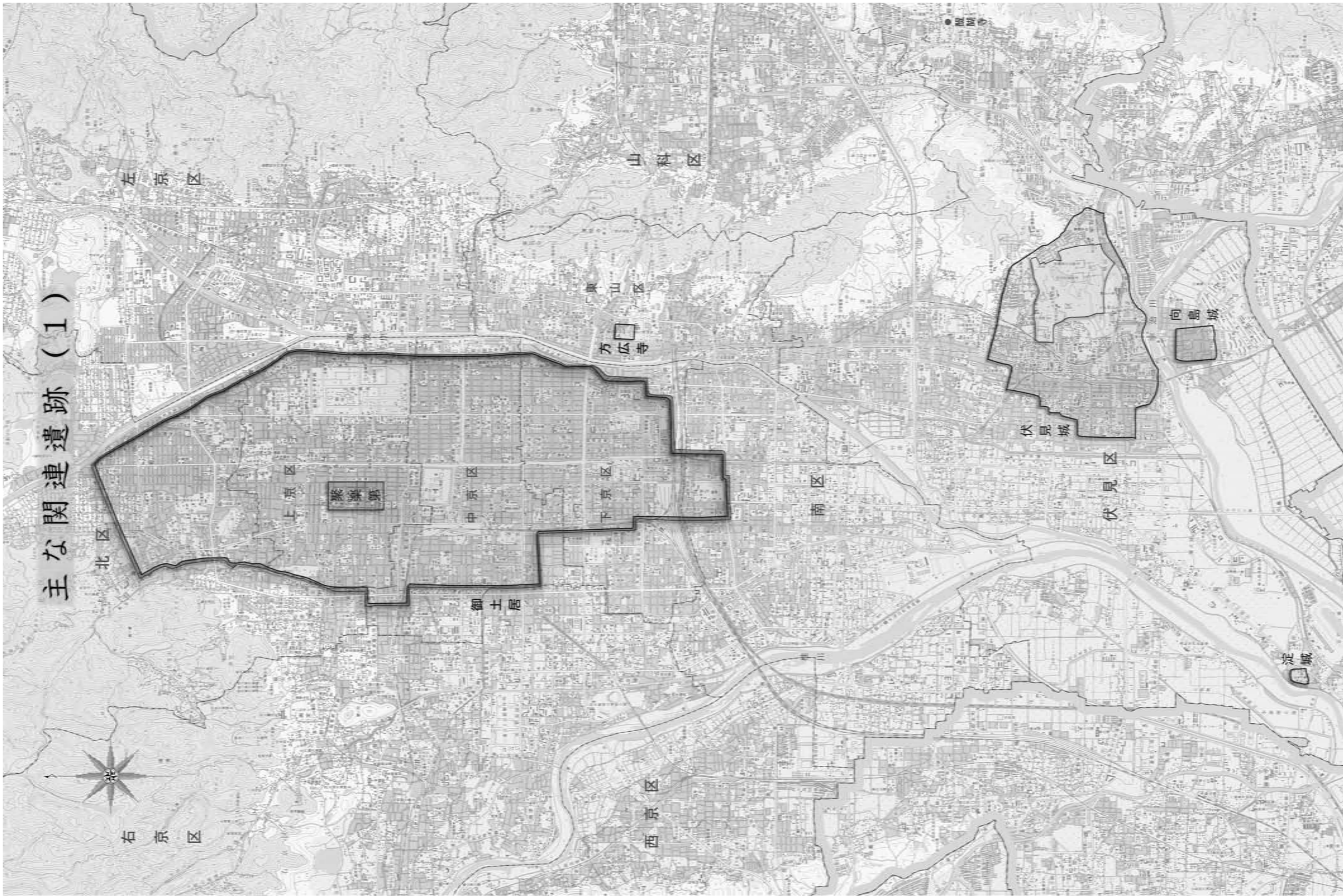
<b>D面3 本能寺跡出土</b>
D20……龍文鬼瓦
D21・22……鬼瓦
D23～26……巴文軒丸瓦
D27～31……能銘軒丸瓦
D32～40……唐草文軒平瓦 中京区西洞院通六角下る池須町

<b>E面 洛中出土ほか</b>
E1……黄金の台子（複製） 伏見区桃山町大蔵
E2……漆器鉢
E3……漆器椀
E4……漆器鉢
E5……漆器椀
E6……漆器蓋
E7・8……漆器椀
E9～11……漆器蓋
E12～15……漆器漆容器
E16～18……木器漆ヘラ 中京区車屋町通御池上る塗師屋町
E19……漆壺（タイ）
E20……漆壺（東南アジア）
E21……漆壺（タイ）
陶片23点……漆壺（東南アジア） 中京区御池通富小路西入る東八幡町

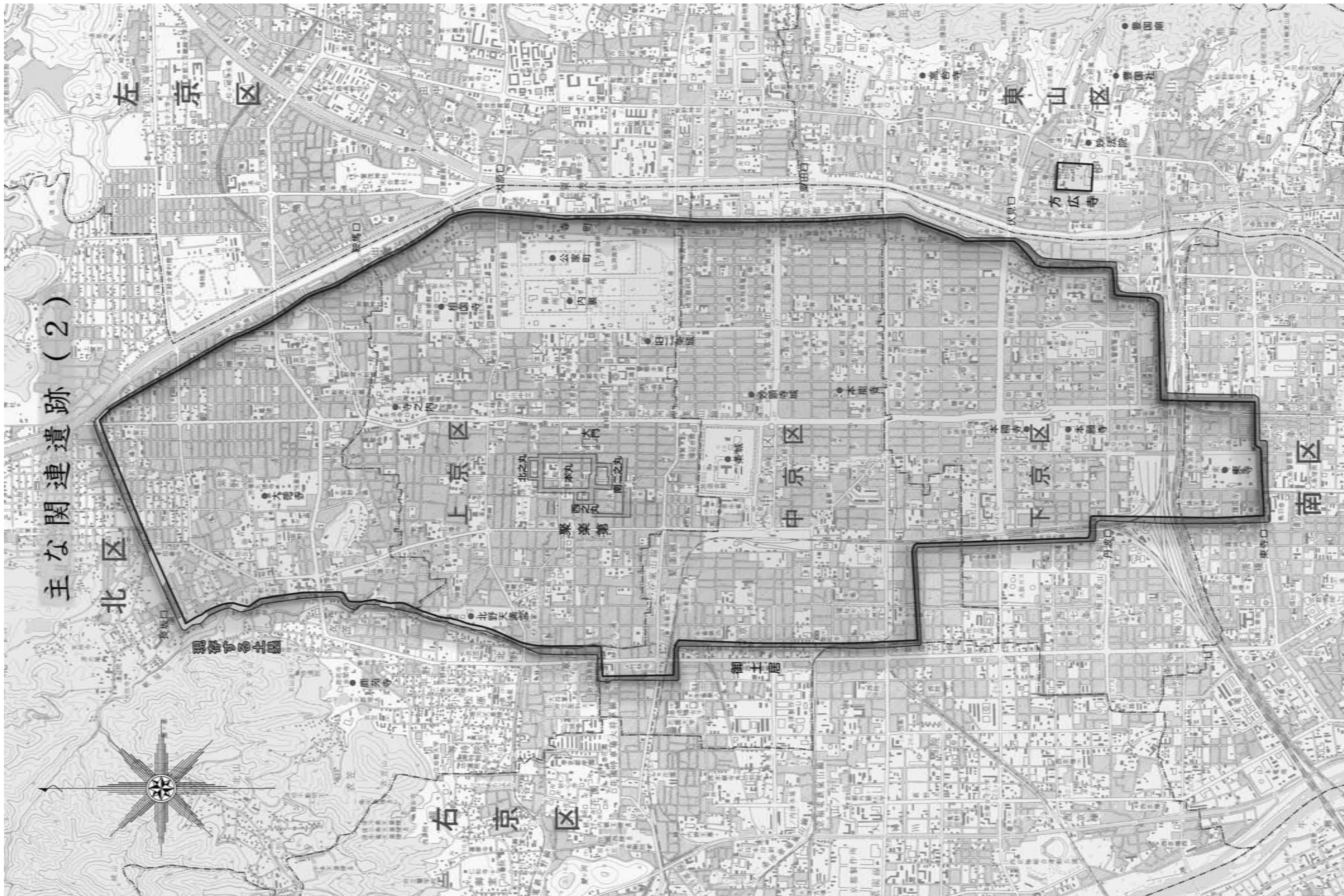
<b>独立ケース</b>
G1……「上」銘金箔鬼瓦 上京区一条通室町西入る東日野殿町
G2……桐文金箔鬼瓦 伏見区桃山町松平筑前・他
G3……クリシタン墓碑 北区一条通紙屋川西入る大將軍川端町
G4～7……木器・人形の頭
G8～10……木器・将棋の駒
G11～14……ミニチュア木製品
G15～17……木簡 南区西九条春日町



# 主な関連遺跡 (1)



# 主な関連遺跡 (2)



# 「京都 秀吉の時代」関連年表

## 聚楽第・御土居・方広寺・伏見城・淀城 関連事項

## できごと

年号	西暦	聚楽第・御土居・方広寺・伏見城・淀城 関連事項	できごと
天正十年	1582年		明智光秀、本能寺を襲い信長自刃（本能寺の変） 羽柴秀吉、光秀と山崎に合戦
天正十一年	1583年	秀吉、新営の妙顕寺城に入る	秀吉、小御所に茶会を開き、黄金の茶室を披露する
天正十四年	1586年	秀吉、聚楽第の新造を始める	秀吉、キリスト教を禁じ京都南蛮寺を破却し宣教師を追う 北野に大茶会を催す
天正十五年	1587年		
天正十六年	1588年	秀吉、淀城築城のため人夫を徴す 後陽成天皇、聚楽第行幸 大仏殿の居破の儀	朝鮮使節、入洛し大徳寺に宿す 誓願寺を京極に移す 寺町の造成進む
天正十七年	1589年	淀城、築垣の礎石を大和に徴す	秀吉、朝鮮進攻準備（文祿の役）
天正十八年	1590年	秀吉、聚楽第に茶会を催す	秀吉、玄以を派遣して秀次を高野山に遣う、秀次自害 宣教師オオルガンティノー、京都に布教する
天正十九年	1591年	利休、聚楽屋敷にて自害 大仏殿、立柱・上棟 秀吉、御土居を築く	明使、講和のため来日し伏見城に入り秀吉と会見 石田三成に命じて京都のキリシタンを捕え、長崎に送り処刑する
文祿元年	1592年	秀吉、伏見指月に新城の造営を始める	大仏殿前に耳塚を築き供養する（慶長の役） 秀吉、醍醐山にて花見の宴
文祿二年	1593年	大仏殿、上棟	東寺金堂立柱する
文祿三年	1594年	秀吉、淀城を壊し伏見に移す 前田利家、宇治川に横島堤を築く	秀頼、醍醐寺・三十三間堂修築する
文祿四年	1595年	秀吉、諸国の桜樹を徴し伏見・向島に植える 聚楽第破却、その旧材を伏見へ運ぶ	
慶長元年	1596年	秀吉、方広寺大仏殿に千僧供養を営む 毛利・小早川等の大名、淀川に太閤堤を築く 大仏殿、立柱 再び向島城の工を起こす	
慶長二年	1597年	京都・伏見に大地震、伏見城・大仏倒壊する 伏見木幡山で伏見城の再建にかかる 伏見城の天守閣が成り秀吉・秀頼これに移徙する 信濃善光寺如来を大仏殿に動座する	
慶長三年	1598年	北政所の意により大仏殿安置の善光寺如来を信濃へ返送する 秀吉、伏見城に没する 方広寺大仏殿が供養される	
慶長四年	1599年	秀頼、方広寺大仏殿に鎮守を創建せんとして着工する 秀頼、伏見城より大坂城に移る	
慶長五年	1600年	家康、向島の館に移り伏見城本丸に入る 秀吉の廟社が阿弥陀峰に創建なる 秀頼、方広寺大仏の再建を計画、太閤堀を築く 秀頼、方広寺で千僧供養を営む 秀頼、方広寺拡張の工事にかかる 東軍、関ヶ原に西軍を破る 家康淀城に入り西軍諸將の伏見第を焼く	
慶長六年	1601年	伏見城再建が大略なり、家康大坂より移る	
慶長七年	1602年	豊国社の楼門なり、内門を竹生島に移す 鑄造中の大仏より出火、大仏殿炎上	家康、新営の二条城に入る
慶長八年	1603年		
慶長九年	1604年	故秀吉七回忌に当り豊国社臨時祭礼あり	秀頼、等持院および安楽寿院塔を修造する 朝鮮使節、京都に入り大徳寺に宿す
慶長十年	1605年	家康、朝鮮使節と伏見で会見する 秀忠、伏見城で將軍宣下を受ける	
慶長十一年	1606年		
慶長十二年	1607年	秀頼、興杼神社再興 秀頼、北野社を造営し正遷宮が行なわれる	
慶長十四年	1609年	幕府、豊国社に禁制を掲げる	
慶長十五年	1610年	大仏殿地鎮祭	幕府、キリシタン宗を禁じ、京都南蛮寺破却を命じる
慶長十七年	1612年	大仏に金箔を押す、台座・敷石などほぼ完成	家康、秀忠、大坂へ出陣する（大坂冬の陣）
慶長十九年	1614年	家康、鐘名の異議により、大仏殿上棟・開眼供養の延期を命じる	大坂城、落城（大坂夏の陣）
元和元年	1615年	家康、大坂再征のために上洛、秀忠伏見城に至る 家康、豊国社破却を梵鐘に伝達する	朝鮮使節、上洛して大徳寺に館し、次いで伏見城に登城する
元和三年	1617年		
元和九年	1623年	家光、伏見城で將軍宣下を受ける 伏見城破却し淀城築城開始する	
寛文二年	1662年	幕府、方広寺の大仏の銅を改め木像となし、その銅をもって銭貨を鑄造	
寛文七年	1667年	幕府、方広寺大仏および堂舎を改造し、その工が成る	
寛政十年	1798年	大仏殿に落雷、大仏・楼門焼失	